

平成28年10月 吉日

各位

(公社)北海道社会福祉士会十勝地区支部  
支部長 東村 智之  
(公印省略)

## 2016年度「社会福祉セミナー」の開催について

日ごとに秋も深まってまいりました、皆さまにおかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より本会の活動につきまして格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本会では毎年、社会福祉の啓発と当会の実践活動の周知等を目的に、一般住民の皆様を対象にする公開セミナーを開催しております。

今年度は、「夢再発見！ ～介護×看護×地域＝∞～」をメインテーマとして、講演会を実施する運びとなりました。

基調講演では「認知症ケアからみえる、暮らしと生き方とは」をテーマに株式会社シルバークラウド代表取締役・財団法人サービス付き高齢者向け住宅協会理事 下河原 忠道氏を講師に迎え講演を予定しています。

つきましては、別紙のとおり開催いたしますので、ご参加くださいますようお願い申し上げます。また、会員以外の方でも関心のある方が居られましたら、お誘い合わせのうえご参加いただけますよう宜しくお願い致します。

なお、セミナー終了後20時より懇親会(会費 3,500 円)を開催致しますので、ぜひご参加下さい。懇親会会場・詳細につきましては、申込み後ご案内申し上げます。

※申し訳ありませんが懇親会の参加を希望される方は早めの申込みをお願いいたします。

### 【 問い合わせ先 】

足寄町国民健康保険病院 医療連携室 寺本 圭佑

〒089-3712 足寄町南2条3丁目1番地

TEL 0156-25-2155 FAX 0156-25-2158

メールアドレス teramoto.keisuke@town.ashoro.hokkaido.jp

## 2016 社会福祉セミナー

# 「夢再発見！ ～介護×看護×地域＝∞～」

### 趣旨

2000年の介護保険施行から16年。多様な在宅サービス・施設サービスが創設され介護、医療、保健、福祉を取り巻く環境は様変わりしています。今、あなた自身、そして目の前にいる利用者さんの『生活・暮らし』は充実していますか。今年度のセミナーでは、十勝で暮らす方々が、住み慣れた地域で生き生きと生活するためにはどうしたらいいのか。魅力ある地域づくりについて、住民の方、専門職の皆さんと一緒に考えたいと思います。

### 記

1. 日 時：平成28年11月5日（土）  
午後5時～午後7時半（受付 午後4時30分～）
2. 場 所：帯広畜産大学 かしわプラザ（住所：帯広市稲田町西2線11）
3. 対象および定員：介護・保健・福祉・医療関係者 および まちづくりに興味のある方

70名

4. 参加費：無料
5. 主 催：北海道社会福祉士会十勝地区支部
6. 共 催：とかち訪問看護師会、フォークロア倶楽部・十勝
7. プログラム

- ① 講 演：「体操を通してみえる十勝の魅力とは」  
村田浩一郎 氏（帯広畜産大学准教授）
- ② 活動報告：「地域でこれから期待されるひと」（案）  
・馬場梨花氏（訪問看護ステーション向日葵所長）  
・鹿内 輔氏（開西病院地域連携部医療相談課）
- ③ 基調講演：「認知症ケアからみえる、暮らしと生き方とは」  
下河原 忠道氏（株式会社シルバーウッド代表取締役）
- ④ 対談：「夢を夢で終わらせないためには」  
下川原忠道氏 × 村田浩一郎氏
- ⑤ おわりに：挨拶 東村智之（（公社）北海道社会福祉士会十勝地区支部支部長）

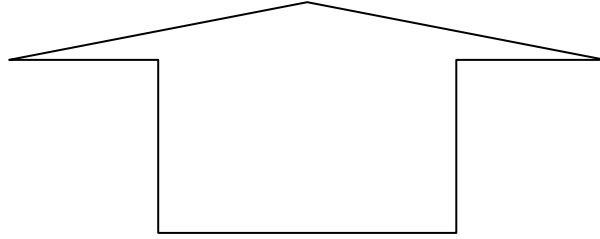
以上

【問い合わせ先】 足寄町国民健康保険病院医療連携室 寺本

TEL：090-6213-7998

FAX：0156-25-2156

Mail：[teramoto.keisuke@town.ashoro.hokkaido.jp](mailto:teramoto.keisuke@town.ashoro.hokkaido.jp)



足寄町国民健康保険病院 寺本宛て

## 「社会福祉セミナー」申込書

FAX 0156-25-2156

所 属	職 名	氏 名	会 員	懇親会

問い合わせ先・担当者

電話 :

FAX :

※ご記入いただきました個人情報は、当該セミナーにて使用いたします。

セミナー以外の目的で本人の了承なく使用することはありません。

※ 申込締切 11月1日(火)

## 講師紹介

下河原忠道氏

「見学に行ってみたいサービス付き高齢者向け住宅は？」と聞かれたら、おそらく真っ先に思い浮かべるのが下河原さんが運営する「銀木犀」だろう。センスのいいインテリア、癒しの音楽、おいしい食事、本気で楽しそうなクラフトワークプログラムやドラムコミュニケーションプログラムといった音楽療法。他のホームとは一線を画するおしゃで度には驚く。だが、「おしゃれ」が下河原さんの目的ではない。入居者が自分らしく自然に生活できる環境。「世話してあげる」のではない、「自分で生きて、納得して人生を終える」ための居場所。それを、命をかけて実現している。明るく親しみやすい笑顔の内側に潜む、熱い「介護魂」がある。入居者さんは、年齢を重ねているのに、若々しく見える。それは、よく笑い、よく動くからかもしれない。そして、看取りは当然のこととして実践する。しかし特別なものとはしない。毎日の暮らしの中に、自然に「死」があると考えているのだ。下河原さんの死生観は、今の一般的な死生観とは異なるように思える。しかし、聞けば聞くほど、日本古来の生命のとらえ方を全うしているようにも思えてくる。それは、下河原さん自身の生き方や、家族への思いにも重なっているようだ。

(けあZineインタビューより)